

ロプサン・ロジン (僧侶) 18才 死亡 2012/7/17



ンガバ州バルカム県ギェルロン。ツオドウン・キルティ僧院の僧侶。正午頃、僧院の集会堂の前で焼身抗議。武装警官が僧院に向かい、これを止めようとする住民との間で緊張状態となったが、僧院の高僧たちが双方を説得してその場を収めた。その晩にロプサン・ロジンは水葬にふされた。この僧院では2012年3月にも二人の僧侶テンバ・ダルギェとチメ・パルデンが焼身抗議している。

ロプサン・ツルティム (僧侶) 21才 死亡 2012/8/6



アムド、ンガバ。ンガバ・キルティ僧院の僧侶。午後5時すぎ、僧院近くの道で政府庁舎に向かいながらダライ・ラマ法王のチベット帰還とキルティ・リンポチェの帰還、僧院内の学校再開を求めながら焼身抗議した。遺族は遺体の引き渡しを望んだが聞き入れられず、火葬後の遺灰のみが渡された。2011年3月に焼身抗議、死亡したロプサン・ブンツォとは同じクラスで論理学を学んでいた。

ドルカル・キ (主婦) 26才 死亡 2012/8/7



アムド、ケンロ(甘肅省甘南チベット族自治州)ツォエ。幼い子供2人の母親。午後2時半頃、ツォエ僧院の仏塔のそばでチベット服を脱いで裸になり焼身。「法王をチベットに！チベットに自由を！」と叫んだ。火を消そうとした人々に「消さないでくれ。生きたまま中国に捕えられたくない。石で私の頭を割って殺してくれ」と懇願したという。当局は夫サンゲ・ドゥンドゥップに「焼身の原因は家庭内不和と言えれば金を払う」と持ちかけたが、夫は拒否。連行されて行方不明となっている。

チュバ 24才 死亡 2012/8/10



遊牧民。午前10時すぎ、メウルマの町中の路上で中国のチベット政策に抗議する焼身を行った。炎の中でスローガンを叫んだというが、未だ内容は伝わっていない。チュバは2012年1月(中国の旧正月)に中国の圧政に抗議して行われた集会の先導者の一人で、警察から追われていた。遺体は当局によって火葬され、家族は遺灰のみを渡された。

ルトック (僧侶) 20才前後 死亡 2012/8/13

タシ (もと僧侶) 21才前後 死亡 2012/8/13



ルトックはンガバ・キルティ僧院メンバ(医学)学堂の僧侶。二人ともンガバ県チュゼマ郷ソルマ村出身でかつて同じクラスで学んでいた。当日、ルトックは僧侶たちに「チベットの全ての勇者、勇女のために祈りを捧げてほしい」と言って1元ずつ渡していた。午後7時頃、二人は僧院そばで火をつけ、地元で「勇者の道」と呼ばれる道に走り出た。焼身後、周辺にいたチベット人たちが集まって抗議の声を上げ、出動した武装警官隊は鉄棍棒などで彼らを襲った。この道では8月6日にロプサン・ツルティムが焼身抗議を行っている。

ロプサン・ケルサン (僧侶) 18才前後 死亡 2012/8/27

ダムチュ (もと僧侶) 17才 死亡 2012/8/27



午前8時半頃、アムド、ンガバのキルティ僧院の東門近くで焼身抗議。スローガンを叫んだあと倒れ、遺体が家族へ引き渡されたかどうかは不明。ロプサン・ケルサンはキルティ僧院の僧侶で、事件後、同じ僧房の僧ロプサン・パルデンも警察へ連行された。ダムチュは2012年2月に焼身・死亡した尼僧テンジン・チュドウンの弟である。

パッサン・ラモ 62才 生存 2012/9/13



ジェクンドの土地強制収用に抗議し、北京の中央政府住建部(建設省)前で焼身抗議。政府は地震後のジェクンドを観光都市にする計画を立て、住民に立ち退きを命じている。

ユンドウン 27才 生死不明 2012/9/29



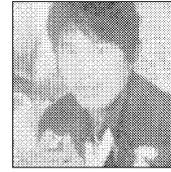
カム、ジェクンド。午後7時頃、ザトウの町中で焼身抗議。鉱山開発の中止、ダライ・ラマ法王の帰還を求め、ロプサン・センゲ(チベット亡命政府首相)がチベット人の指導者だと叫んだ。町では数日前から「幸福に暮らすチベット人」をテーマにプロバガンダ映画の撮影が始まり、当局は強制的にチベット人を集めようとして住民はこれに反発、不参加を表明していた。ザトウでは2012年6月にもンガワン・ノルベル、テンジン・ケドゥップが焼身抗議を行っている。

グドゥップ 43才 死亡 2012/10/4



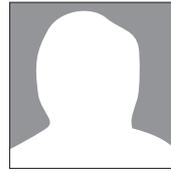
午前10時頃、ナクチュの町中で焼身抗議。「チベットに自由を。ダライ・ラマ法王のチベット帰還を」と叫んだ。彼はチベットの歴史に詳しく、カンキュ・キ・ナジョンの筆名で新聞等に記事を載せていた。かつてインドへ亡命し2005年に帰還、一時は刑務所に収監されていた。焼身前にはQQ(中国のインスタントメッセージ)に「民族の誇りを保ち、勇気を失わず、団結を強めて欲しい」という言葉を残した。

サンゲ・ギャンツォ 27才 死亡 2012/10/6



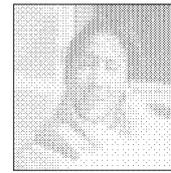
アムド、ケンロ、ツォエ。正午頃、ツォエから10kmほど離れたドルカル僧院近くで焼身抗議。「チベットに自由を！ダライ・ラマ法王をチベットへ！言語自由！」と叫んでいたという。二児の父親。妻はドルジェ・キ。当局は「焼身の原因は夫婦仲だと言えれば100万円(約1260万円)与える」と持ちかけたが遺族はこれを拒否した。ツォエでは2012年8月にもドルカル・キが焼身抗議を行った。

タムディン・ドルジェ 57才 死亡 2012/10/6



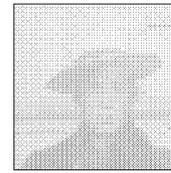
アムド、ケンロ、ツォエ。午後1時頃、ツォエ僧院仏塔前で政府のチベット政策に対して焼身抗議、その場で死亡した。彼の孫はゲルク派ラブラン・タシキル僧院の座主グンタン・リンポチェ7世であり、地元への影響は大きいと思われる。2012年8月に同じ場所でドルカル・キが焼身抗議。ツォエでは「焼身抗議の情報を外国へ流した」として4人の僧侶が連行され、行方不明となっている。

ラモ・キャップ 27才 死亡 2012/10/20



午後2時頃、アムド、サンチュのボラ僧院近くの路上で焼身抗議。「法王をチベットに！」等と叫び、炎に包まれながら走ったあと倒れて死亡した。長女ベマ・ツォ(10才)、次女ドゥクモ・ツォ(7才)の二児の父親。妻はドルジェ・キ。ボラでは2012年3月に僧侶約100人がデモが行い、以降チベット人に対する弾圧が強化されていた。

ドゥンドゥップ 61才 死亡 2012/10/22



午前9時40分頃、アムド、サンチュのラブラン・タシキル僧院近くの路地で政府のチベット政策に抗議する焼身を行った。駆けつけた部隊が彼を連れ去ろうとするのを近くのチベット人や僧侶が阻止して僧院付属の病院へ運び込んだが、すでに死亡していた。彼は最近、大勢の若者が焼身する事を悲しみ、「将来の生命線である若者より我々年寄りが焼身して死んだ方がいい」と語っていた。